

ラオスの日常生活における医療とその背景

○ 山本育生 石川真海 長村優里 大迫瑞季 井手紗里奈 中村一誠 堺智弘
九州大学熱帯医学研究会 ラオス班

序論

1. 背景

ラオスの少数民族の人々が、呪術師に医師と同程度の信頼を置いていたという話を聞き、ラオスの医療に対する関心が高まった。そして、実際にラオスを訪問し、実情を調べることにした。

2. 目的

現在のラオスの医療における課題について調査をし、私たちにできる改善策を模索する。

3. 方法

2024年8月16日（金）にラオ・フレンズ小児病院を見学し、訪問看護に同行した。

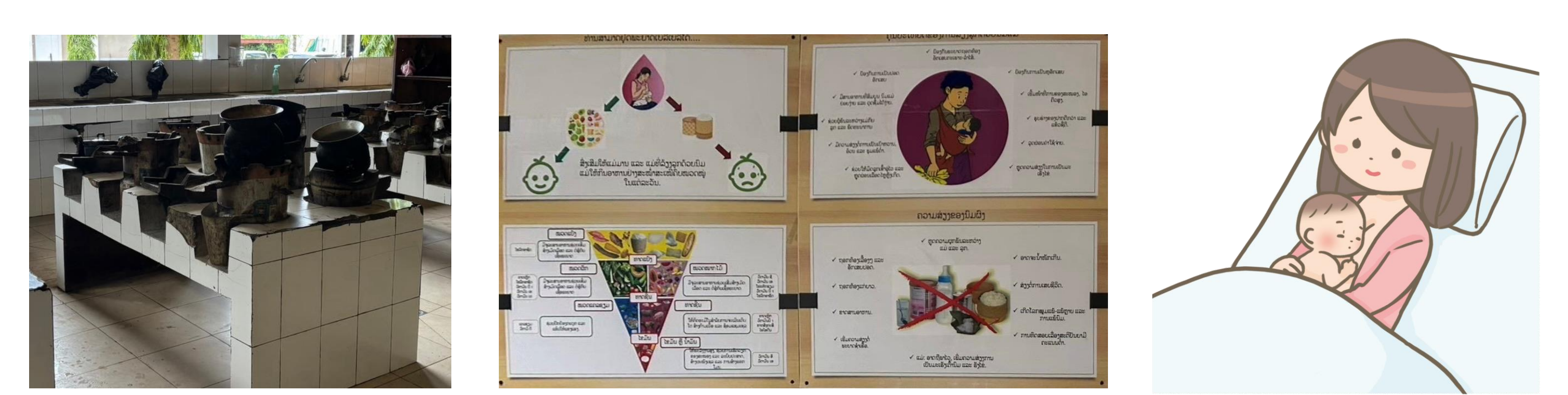
結果

4. ラオ・フレンズ小児病院

基本情報
ラオス北西部のルアンパバーン県にある
外来患者数：80～100人/日 ベッド数：61（2023年時点）



玄関 受付とともにトリアージ計測と身体測定を行う
救急病棟 ほとんどが感染症が原因で搬送されてくる
<図以外の施設>
庭 野良犬が10匹ほどいた
待合所 受付の順番取りのために宿泊する方もいる
キッチン 栄養士が指導し、**患者の家族が患者のご飯を作る**
授乳室 壁面に**栄養バランスの図**を貼っている
新生児室 **カンガルーケア**を取り入れている
ミルクバンクがある（ラオスに2ヶ所の内の1つ）
サラセミア 専門外来 **サラセミア**は遺伝性で定期的な通院が必要な疾患である
この対応をする専用の部屋があり、週に2度使用する



5. 訪問看護

1 軒目 カム族 女児
現状 テレビや冷蔵庫 キッチン 農業用機械あり 石造りの家
母親と子どもの栄養不足 子供のGスコア-2（理想：-1～1）
取り組み：頭囲と体重の計測しグラフ化
地区の保健センターで栄養剤をもらうよう指導
2 軒目 カム族 男児 1歳4ヶ月
現状 若い母親の代わりに祖母がお世話 子どもの栄養不足：Gスコア低下
生後5分間の無呼吸状態→脳性麻痺→歩行障害あり
取り組み：身長と体重の測定など発達評価
栄養ペースト食品の配布 次回来院の催促
3 軒目 民族不明 男児 およそ12歳
現状 てんかん患者 学校に行っていない 母親は対応に困っている
取り組み：本訪問の1週間前に抗てんかん薬を増やし、ジェンガを提供
（てんかんの状態を評価するため）→経過は順調
* Gスコア：成長を評価する基準

考察

6. ラオ・フレンズ小児病院の課題

- ①入院施設の**ベッド数不足**
廊下にベッドが何個も並んでいた
患者の家族も廊下で寝泊まりしていた
→日本からの支援で宿泊施設を増設中
- ②医師を含む**スタッフ不足**
特定の専門医がない 例）心臓外科 脳外科 整形外科
→**外国から応援**に来てもらい
待機患者を一日で手術することもある
- ③様々な支援活動に必要な**資金不足**
例）手術費の補助 交通費の補助 スタッフの外国研修



7. 訪問看護から考える課題

- ①慣習
産後の食事制限 衛生製品の使いまわし
*文化 **ユーファイ**
...身体の回復を信じて、産後に母親は火の近くで過ごす。
慣行の一つ【**カラム・キン**】
...産後に母親が生野菜、生魚、特定の魚、漬物
特定のハーブ類などを摂取することを禁忌とする。
禁忌を犯すと、ピッカムと呼ばれる。
体調が悪い状態になると恐れられている。
▶ 親の考え方・地域の言い伝えが**母子の健康に直結**
- ②インフラ
病院への**道のりが非常に長く、状態が悪い**
 - ・3軒目の家までは**車で片道3時間以上**かかった
 - ・舗装がほぼされていない
 - ・断崖絶壁も多く**車ですら行けない**ところもある
 - ・雨が降ると車での移動はより困難になる
 - ・舗装が壊れた箇所は**修理されず放置**されたまま
 - ・公共交通機関がない
- ③経済面
病院につくまでにかかる費用や診療費は決して安くない
 - ・病院に行く日に働けばその分お金が手に入る
 - ・保険制度が機能していないため自己負担が大きい

定期的な通院に対してあまり積極的にはなれない

- ▶ 薬が効きにくい疾患が増える（菌が薬に対して耐性をもつ）
治る疾患が治らない
定期的なサポートが必要な疾患の対応ができない

8. 私たちができることは何か

ラオ・フレンズ小児病院のような団体を**外に発信**することで、認知度が高まる。知っている人が増えると、資金も集まりやすくなる。その資金で人材を増やし教育ができ、患者に対しての経済的支援の金額も増えるだろう。人材育成は、最終的にラオス人のみで病院を運営していくという目標にも近づく。ラオ・フレンズ小児病院のような目標を持った活動が増えるとより多くの人に医療が届くのではないだろうか。

参考文献 謝辞

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN <https://fwab.jp/about/japan/>
JAMMIN https://jammin.co.jp/charity_list/190527-fwab/

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN 代表 ラオ・フレンズ小児病院看護師：赤尾和美 さん
ラオ・フレンズ小児病院の皆様
医学歴史館 徳安祐子さん 九州大学医学部同窓会 九友会 九州大学医学歴史館
WHOスタッフ：川口美子先生 ラオス保健省：宮野真輔 先生、永井真里 先生
NTDs Youthの会：近藤裕哉さん 在ラオス日本国大使館現地職員：吉田香世子 先生
大谷大学社会学部講師：古谷伸子先生 島根県立大学 人間文化学部 地域文化学科 准教授：増原善之 先生
京都大学 地域研究科博士課程 安松弘毅さん 好光百合さん